

参加
無料

“その先”を 考える医療へ

- 若年がん患者支援と妊娠性温存 -

がん治療の進歩により、若年世代の患者さんが“その先”的人生を描ける時代になりました。本講座の第1部では、小児・AYA世代のがん患者支援をテーマに、患者さんの体験談や、妊娠性温存を含む支援の最新動向を県民の皆さまへわかりやすく紹介します。第2部では、医療者向けに妊娠性温存療法の実際と課題を、専門家が症例を交えて解説します。支援を「知る」「学ぶ」ことから、未来につながる医療と一緒に考えていきましょう。



講師
鈴木 直 先生
聖マリアンナ医科大学病院
副院長
聖マリアンナ医科大学
産婦人科学 主任教授

2026年
2.7 土
13:00～15:45

※ WEB同時配信（ハイブリッド）

- 場所** ペリエホール D+E ※ JR千葉駅直結・ペリエ千葉本館 7階
- 定員** 60名 **対象** 千葉県民、がん患者・家族、医療従事者など
- 申込方法** **2月5日（木）** までに参加申し込みフォームよりお申し込みください。
URL : <https://forms.office.com/r/01ELaX17K0>
- プログラム**
- 第1部 県民公開講座 『小児・AYA世代がん患者への支援』**
がんと向き合う若い世代の現状や支援、実際の患者さんの体験談、妊娠性温存に関する意思決定のサポートについてお話しします。
- 第2部 医療者向け研修会 『妊娠性温存療法の実際と課題』**
がん・生殖医療の最新の知見と臨床現場での課題について、専門医と胚培養士から専門的な内容をお届けします。

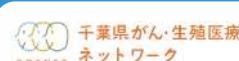


Formsリンクへ
移動します

↑お申し込みは
こちらから

主催

千葉県がん・生殖医療ネットワークCOFNET
事務局：千葉県がん・生殖医療相談支援センター



第1部

13:00～14:30



鈴木 直

県民公開講座 『小児・AYA世代がん患者への支援』

※AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の略で、15歳～39歳の年齢層を指す言葉です

「がん・生殖医療における、
将来こどもを授かる選択肢に関する意思決定支援」

PROFILE

聖マリアンナ医科大学病院産婦人科医師 がん治療医として、長年、
小児・AYA世代がん患者に対する「がん・生殖医療」を推進してきた。

がん患者さんが、「希望を持ってがんと闘う」ことができるよう、この領域の発展を願っている。



日野 もえ子

「AYA世代がん患者への
支援の現状とこれから
- 妊娠性温存療法をふくめて -」

PROFILE

千葉大学医学部附属病院小児科医師 小児血液・がんの治療に携わる専門医 こどもと家族に寄り添い、「ともに治す医療」を大切にしている



中村 乃梨子

「小児がん経験者として
生きる今」

PROFILE

認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズスタッフ
自身の経験から、子どもと家族に寄り添う活動を行っている



佐久間 佳祐

「私の働き方
- 小児がんサバイバーとして -」

PROFILE

千葉大学医学部附属病院看護師
がんサバイバーとしての経験を力に、患者と家族に寄り添う医療を届けている



江島 咲紀

「AYA世代がん患者のくらし
を支える」

PROFILE

千葉大学医学部附属病院患者支援部のメディカルソーシャルワーカー、千葉県移行期医療支援センターの移行期医療支援コーディネーター

第2部

14:40～15:45

医療者向け研修会 『^{よう}妊娠性温存療法の実際と課題』

※妊娠性温存療法とは、がん患者さん等が将来子どもを授かるために、がん治療の前に胚（受精卵）や卵子、精子の凍結保存などを行う療法です



鈴木 直

「がん・生殖医療の
現状と課題」



平岡 謙一郎

「^{よう}妊娠性温存療法
- 卵子／受精胚の凍結の実際 -」

PROFILE

亀田IVFクリニック幕張
培養室室長 管理胚培養士



塙本 祥吉

「造血器腫瘍患者における^{よう}妊娠性温存
の実際 - 血液内科医の立場から -」

PROFILE

千葉大学医学部附属病院血液内科医師
血液疾患全般、造血幹細胞移植、移植後
フォローアップを専門とし、治療だけでなく、患者さんがその先の人生を描ける医療
を目指している